

JASE

現代性教育 研究ジャーナル

MONTHLY JOURNAL of SEX EDUCATION TODAY

2025年
No. 170
2025年5月15日(毎月15日)発行

日本性教育協会
THE JAPANESE
ASSOCIATION
FOR SEX EDUCATION

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-3富山房ビル5階 Tel.03-5801-6788 Mail info_jase@faje.or.jp URL https://www.jase.faje.or.jp 発行人 石川哲也 編集人 小澤洋美
© JASE. 2025 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

期待される、性教育の外部講師…………… 1	多様な性のゆくえ⑦…………… 15
北東北性教育セミナー2024・報告…………… 8	今月のブックガイド…………… 16
"めぐみ"を生きる⑭…………… 13	JASEインフォメーション…………… 17
わたしたちの性教育アクション⑳…………… 14	

期待される、性教育の外部講師 出張授業における心得

全国性教育研究団体連絡協議会理事長・筑波大学名誉教授 野津 有司

はじめに

今日、わが国の学校において目指されている性に関する指導は、日本の学校教育の制度や学習指導要領の考え方等の長をふまえた「日本型包括的性教育」と言えよう。そこで、これをさらに改善・充実することが重要であり、その課題のひとつとして「学校における性教育への地域の人材・資源の適切な活用について、外部講師の確保も含めて、持続可能性の観点から検討すること」を拙文「欧米のセクシュアリティ教育事情と『日本型包括的性教育』を考える」本誌No.148(2023年7月発行)⁽¹⁾において指摘した。

もとより、学校での様々な健康教育の推進において、家庭や地域との連携の重要性は常に強調される場所である。しかしながら、関係者に十分理解されながらもその掛け声ばかりに留まり、実際に連携を図ることはとても難しいと嘆く声が多く聞かれる。とくに、デリケートなテーマである性教育における学校、家庭、地域の連携は容易ではなく、重い課題となっている。



筆者は、これらの連携を有機的に前進させるためには、「共通理解」「相互尊重」「役割分担」「協調的アプローチ」の4つの鍵をしっかりとふまえることが重要であると考えている。

外部講師の活用

学校では、外部から専門家などを講師として招いて、教育効果をより高めるために講話や授業を行ったりする。健康教育でも、こうした指導方法がしばしば

利用されている。学校での健康教育の中核を担う小学校の体育科、中学校および高等学校の保健体育科の学習指導要領（平成29年・30年改訂）の解説⁽²⁾⁽³⁾⁽⁴⁾では、「内容の取扱い」のなかで指導に当たって次のように示しており、外部講師の活用も想定される（表1～3）。また、平成30年発行の（公財）日本学校保健会編「教職員のための指導の手引～UPDATE！エイズ・性感染症～」⁽⁵⁾や東京都教育委員会⁽⁶⁾をはじめ自治体で近年作成された性教育の手引等の多くの指導資料では外部講師について取り上げ、その効果に期待する記載が目立つ。

保健・医療の専門家、妊婦、性的マイノリティなど様々な立場の人が専門的な知見に基づく指導や貴重な体験などを児童生徒に直接語り、伝えることは大変有意義である。こうした外部講師がもっと多く活躍し、性に関する指導の一端を担う適切なアプローチが学校でより効果的に展開されることを期待したい。

表1 小学校学習指導要領解説体育編（平成29年改訂）

指導に当たっては、身近な日常生活の体験や事例などを題材にした話し合い、思考が深まる発問の工夫や思考を促す資料の提示、課題の解決的な活動や発表、ブレインストーミング、応急手当などの実習、実験などを取り入れること、また、必要に応じて地域の人材の活用や養護教諭、栄養教諭、学校栄養職員などとの連携・協力を推進することなど、多様な指導方法の工夫を行うよう配慮することを示したものである。

（筆者抜粋、下線）

表2 中学校学習指導要領解説保健体育編（平成29年改訂）

指導に当たっては、生徒の内容への興味・関心を高めたり、思考を深めたりする発問を工夫すること、自他の日常生活に関連が深い教材・教具を活用すること、事例などを用いたディスカッション、ブレインストーミング、心肺蘇生法などの実習、実験、課題学習などを取り入れること、また、必要に応じてコンピュータ等を活用すること、学校や地域の実情に応じて、保健・医療機関等の参画、養護教諭や栄養教諭、学校栄養職員などとの連携・協力を推進することなど、多様な指導方法の工夫を行うよう配慮することを示したものである。

（筆者抜粋、下線）

表3 高等学校学習指導要領解説保健体育編 体育編（平成30年改訂）

指導に当たっては、生徒の内容への興味・関心を高めたり、思考を深めたりする発問を工夫すること、自他の健康やそれを支える環境づくりと日常生活との関連が深い教材・教具を活用すること、ディスカッション、ブレインストーミング、ロールプレイング（役割演技法）、心肺蘇生法などの実習、実験、課題学習などを取り入れること、また、学校や地域の実情に応じて、保健・医療機関等の参画を推進すること、必要に応じて養護教諭や栄養教諭などとの連携・協力を推進することなど、多様な指導方法の工夫を行うよう配慮することを示したものである。

（筆者抜粋、下線）

出張授業に向けた留意事項

下表は、喫煙防止をテーマにした外部講師の講演方式による伝統的な指導の長所と短所について指摘したものである。⁽⁷⁾今日の性教育でも講演方式で取り組む場合には同様に、対象となる児童生徒や受け入れ側の学校の立場から見た短所となりうる点について配慮・工夫し、講師自身の専門性や経験などに基づく長所を十分に発揮することが求められる。

表4 外部講師による講演方式の長所と短所

	長所	短所
生徒	・新鮮で印象深い。 ・専門家としての信頼は、内容の説得力を増す。	・権威的に陥りやすく、一方的な情報伝達となり、反発心や誤解を生む可能性がある。
学校	・教師集団やPTAの共通理解のきっかけとなる。	・過大な期待を持ち、安易に依存しやすい。

（野津有司，1991）

ここでは、「外部講師のための8か条」⁽⁸⁾を改訂し、「出張授業における心得」として紹介するので、実践のためのポイントとして参考にされたい。

(1) 出張授業を行う学校で使われている教科書を確認し、関連する内容についておさえておく

出張授業で対象とする児童生徒が、性に関して日常の授業でこれまでどのような内容をどう学んだのか、あるいはこれからどう学ぶのかについてある程度知ることは、自身の出張授業を構想する上で有意義であ

る。その一歩として、法的な拠り所となっている「学習指導要領」および「解説」における関連内容の記述について、文部科学省のホームページ等で目を通すことも推奨されるが、関連する教科書の内容を確認することが効率的な手立てとなろう。

その際「教科書を教えるのではなく、教科書で教える」とよく言われるように、教科書は主たる教材として授業で活用するものである。よって、限られた配当時間において教科書に記載された内容でも取り扱わない部分があり得ることをふまえておく必要がある。

そのため、学校との事前の打合せにおいて、既習状況などの情報を収集することも望まれる。たとえば、関連する実際の授業内容や児童生徒の理解の程度や様子などについて聞き取ることができれば、その授業と関連付けて話したり、無用な重複を避けたりすることに役立つ。また、教科書により記載欄の名称は様々であるが「発展」「資料」「コラム」等に示されている興味深い内容・話題について、それまでの授業では時間の都合等により十分触れられていないことがわかれば、出張授業で注目して掘り下げたり広げたりすることも考えられる。

ところで、令和6年度の教科書を見ると、たとえば小学校保健では6社、中学校保健体育では4社、高等学校保健体育では2社（3教科書）から発行されている。これらは、いずれも教科書検定済みで学習指導要領に準拠しており、同じ学校種の教科書においては共通する部分も多いが、それぞれ創意工夫され特色が見られる。他の関連する「生活」「理科」「家庭」「技術・家庭（家庭分野）」「社会」「公民」「道徳」等の教科書についても同様のことが言える。

そこで、出張授業を行う学校で採択している関連教科の教科書を確認し入手したり、学校から借用したりすることが望まれる。また、外部講師の立場で出張授業に向けて、学校で使用している教科書について対象校に問い合わせたりすることは、その学校の教育に関心を持ち、教育活動の一環として出張授業に取り組もうとする姿として、印象良く伝わるかもしれない。

(2) 学校が望む内容等についても、事前に丁寧に打合せを行い、そのニーズ・注文に応じた「**出前授業**」を準備する

外部講師として学校での性に関する指導を行う際に

は、対象となる生徒の興味・関心や理解力等、発達の段階を十分に考慮した内容や指導方法になるよう、講師と学校の連絡を密にし、役割分担について事前に打合せを行うことが重要である。

あってはならないことであるが、講演等を行う時間と場所を提供し、あとは全て講師に任せるといようなスタンスで依頼する学校の場合には、講師の立場から打合せを提案・要望する等、とくに注意深く進める必要がある。

参考までに、(公財)日本学校保健会では、「学校が外部講師を活用する」場合の留意事項として、具体的に次のようなことをあげている。⁽⁵⁾ 外部講師としても、これらの点に留意して、必要に応じて確認したり、疑問点等についてたずねたりすることが望まれよう。

- 実施前には講師を交えて、指導の目的や教育課程に位置付けられた計画のなかで、既習した内容は何か、指導してもらいたい内容は何か等についての打合せを十分行う。
- 打合せの際には、事前に実施したアンケート結果等があれば生徒等の実態として伝え情報共有し、講師の持つ様々な知見や情報を有効に活用してもらうようにする。
- 集団指導で行う内容と個別指導で行う内容を明確にし、学習指導要領の内容を逸脱した指導にならないようにする。
- できれば、講師から配布される資料や当日の視聴覚資料なども事前に確認し、学校の意向と異なる点があれば修正をお願いする。
- 実施後は、指導に対するお礼とともに、感想や今後の取組の計画等を伝えるようにする。

(3) 導入における「**つかみ（まくら）**」を十分練る

出張授業のテーマが「性」ということで、受講する児童生徒にはとくに気恥ずかしさがあったり、会場には独特の緊張感が漂ったりしていることが十分予想される。そのため導入では、性について真面目に学ぶ意味を考えるよう問いかけるなどして、受講する価値と意欲を少しでも引き出すようにしたい。

そこで、一般的に導入では挨拶と自己紹介から始められるが、この流れのなかで児童生徒に安心感と内容への関心や期待を高めることが思案どころである。授

業の導入は、相撲で言えば立ち合い、野球の投手では打者への第一球にたとえられるようにとても重要であり、十分練る必要がある。

たとえば、外部講師の立場により異なるが、自己紹介を兼ねて、本業の専門性や興味深いエピソード、出産や育児中の緊張や感動、性的マイノリティの貴重な体験などをリアルに紹介したり、クイズ形式で問いかけたりして始めるのも一案である。いずれの立場でも、外部講師としての新鮮さを児童生徒に上手くアピールすることがポイントになろう。

なお、性について学ぶ意義・重要性を訴えようとするとあまりに、不安を煽ったり脅したりすることにならないように注意する必要もある。また、導入ではその後の内容・展開について見通しをもって安心して受講できるように、大筋の流れを示すことも基本として望まれる。

(4) 授業への興味や集中力を高めるために、視聴覚資料や実物の持ち込みを工夫する

具体的な視聴覚資料や実物を児童生徒に直接見せたり触れさせたりする活動は、授業への興味や集中力を高めるのにとても有効である。

そこで、専門家や経験者だからこそ有する事物を持ち込むことをできるだけ企図してみてもどうだろう。こうした工夫は、外部講師に期待されていることであり、児童生徒からはもちろん学校からも大いに歓迎されるはずである。

たとえば、話題に関係のある医療の道具、関係者の音声や映像、教科書に掲載されている写真やイラストの実物などの提供が考えられる。なお、いずれも事前にそのねらいと提示の仕方等について学校の理解を得ておくことや個人情報への配慮等については十分留意する必要がある。

(5) リアルな「体験談」や具体的な「たとえ」で、魅力的にわかりやすく伝える

わかりやすく話すことは当然のことではあるが、実際には本当に難しい。とくに外部講師においては、日常接していない児童生徒がどのように受け止め、どう解釈するのかを予想しながら話し方、伝え方を考えることは至難である。正に「言うは易く行うは難し」である。

そこで、話す予定の内容をブラッシュアップするために、日々の授業を通して児童生徒の理解力等の現状をより把握している学校関係者に助言を求めることを推奨したい。とくに、気がかりな点があれば是非とも相談されたい。

ところで、最近気づかされ、悩ましく思っていることがある。それは「性の多様性」の解説にあたり「性自認（ジェンダーアイデンティティー）」をわかりやすく「心の性」とたとえる表現を用いることに、学校から心配する声がある。「心」とは、教育現場では自分自身で決めたり選んだりするもの、できるものとして扱うことが多いことから、児童生徒が「心の性」として教えられた性自認も自らの意思で自由に決められることと誤解しかねないというのである。生まれたときの生物学的な「体の性」に対して、性自認を「心の性」と呼ぶことは絶妙にたとえた表現ではあるが、丁寧に補足しないと誤った理解へ導きかねず、慎重を要する。

(6) 児童生徒との「交流・対話」を積極的に取り入れ、主体的に考えることを促す

外部講師としての機会は、その場の児童生徒に対しては基本的にワンチャンスであることから、取り上げたい内容がどうしても盛り沢山になりがちである。そして、時間も限られていることからつい早口となり、次から次へと進める展開に陥ることが懸念される。

性のテーマのみならず、がん、食、薬物乱用などいずれに関しても、学校から高い評価を得る外部講師は、配当された時間に応じた内容を十分精選した上で、児童生徒との交流や対話を重視し、主体的に考えることを促す働きかけを積極的に行っていることが共通して目立つ。

これは、現行の学習指導要領において、著しく変化する社会を生きるために必要な資質・能力として「生きて働く知識・技能」「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性の涵養」の3つの柱で整理された。そして、これらを育成するために、学ぶ内容とともに主体的・対話的で深い学びのプロセスを重視することが目指されている。すなわち、予測不能の課題に向き合う新しい時代のなかで、何ができるように、どうよりよく生きていけるようになるかと

いう視点がより重視されたものと言える。

外部講師による指導は、主に知識を教えることが役どころと言ってしまうこともできるかもしれない。しかし、学校教育の一環として指導する限り、学校教育をとおして育成しようとする力について共通理解し、それぞれの立場を生かしつつ、できるだけ共に目指したいものである。とくに「性を学ぶことは生き方を学ぶこと」とする性教育では、簡単に居直ってはならないであろう。また、こうした資質・能力はそれぞれ単独で身につけることとしては考えにくく、学ぶ過程で絡み合って習得されていくものであることを理解されたい。

そこでたとえば、一方的に話すばかりでなく、受講者の集団のなかに積極的に入っていき、考えることを問いかけたり、意見を発言・発表させたりするなどして、大切な内容を深める試みを工夫してほしい。なお、単調な知識の伝達を避けるためには、重要な内容のところでは声を大きくしたり、繰り返したりして強調するほかにも、敢えて声を小さくしたり、沈黙の間を前後に取ったりして印象づけて引き込むことも考えられる。

(7) 多様な子供たちに寄り添い、肯定的に展開する

受講する児童生徒も様々の困難な事情や複雑な感情を背負って学校生活を送っていることを十分理解した上で、適切に展開する必要がある。たとえば、児童生徒の性に関する状況等をできるだけ把握しようと事前アンケートを実施することも少なくないが、その内容や方法について注意深く検討することを怠ってはならない。また、アンケートの限界として、重く深刻な事情ほど見えにくいことも承知しておく必要がある。性に関する事情はとくに微妙で複雑な場合があるので、たとえ明らかになっていなくても、苦しい事情や否定的な感情を抱える児童生徒が存在しているものとして、それを前提にして十分配慮する必要がある。事前のアンケートの検討不足や関係者の想像力・理解力不足などから、児童生徒を知らないうちに傷つけるようなことは極力避けなければならない。

また指導中には、児童生徒の様子を対等な目線で観察し、いろいろな意見も受け入れ寄り添う姿勢を示したり、良いところを具体的に褒めたりすることを意識して実践することが望まれる。外部講師によるこうし

た肯定的な言動は、児童生徒の自己肯定感（セルフエスティーム）を高めることに大きな影響力があり、その効果が期待される。なお、青少年の危険な性的行動等の防止のための研究では、自己肯定感の育成が基盤として重要であることがこれまでに明らかにされている。⁽⁹⁾⁽¹⁰⁾

(8) 「結び」では、これからも真剣に性について学び続けるよう、エールをおくる

結びでは、重要な要点を整理してまとめ、そして受講した児童生徒へ感謝の気持ちを述べることになる。そこで、性について学ぶことは今日限りではなく、これからも真剣に学び続けていくことが重要であることを告げるようにしてはどうだろう。生涯を通じて、社会の変化や科学の発展に応じて性の正しい知識と考える力を身に付けていくことは不可欠であり、それが幸せな人生を送るための道しるべになるはずである。

また、外部講師として「今後に向けて、皆さんが夢と希望を膨らませてそれぞれの人生を歩んでいくことを応援しているので、もし性にかかわることなどでたずねたいことや相談したいことなどができたら連絡して」などと加えて熱く言い残すことも、私は素敵だと思う。

「保健教育における個別指導」の考え方に基づく性教育

中央教育審議会答申（平成28年12月21日）において「子供たちの発達を支えるためには、主に集団の場面で、あらかじめ適切な時期・場面に必要な指導・援助を行うガイダンスに加えて、主に個別指導により、個々の子供が抱える課題の解決に向けて指導・援助するカウンセリングを、それぞれ充実させていくという視点が必要であり、こうした視点に立って、一人一人の発達の特性等に応じた個別指導を充実させていくことも重要になる」ことが示された。それを受けて改訂された現行の学習指導要領では、集団指導で教えるべき内容と個別指導で教えるべき内容を明確にし、それらを関連させて指導していくことが重視されている。

（公財）日本学校保健会では、こうしたことをふま

えて「保健教育における個別指導の考え方、進め方」⁽¹¹⁾を作成し、その啓発・普及を図っている。この指導資料では、保健教育としての個別指導は、体育科・保健体育科などの集団指導の内容や時期等をふまえて、個々の児童生徒や任意の小集団を対象として意図的・計画的に取り組むこととなっている。その際には、各校の児童生徒や保護者、教職員の実情やニーズ等に応じて、個別指導を実施するかどうか、また指導内容や指導方法が適切であるか等について十分検討する必要があることも示されている。

子供たちの心身の発育・発達には個人差があり、性に関する感受性なども異なり、家庭の事情や背景も様々であることから、集団指導で教えるばかりでなく、そこで学習した知識を補完したり、発展させたり、また配慮を必要とする児童生徒により細やかに寄り添ったりすることができる個別指導は大変有意義である。

外部講師としては、こうした個別指導にも協力することが期待される。たとえば、学校から依頼されて集団指導を実施する場合に、そこで関心が高まりさらに学びたいという児童生徒が任意で参加する個別指導を行うことが考えられる。また、外部講師による性に関する集団指導に対して不安等があり、開催のハードルが高い学校の場合には、まずはオプトイン方式となるこの個別指導の実施を提案してみることもできよう。

おわりに

わが国の性教育の今後の発展には、学習指導要領のさらなる改善・充実とともに、魅力的な教材や効果的な指導方法の開発も必要であることは、これまでの拙文でも指摘した。

さらに、すべての教師にとって児童生徒の性の課題は日常的で避けて通れないものであることから、教師における性の課題に取り組む覚悟と指導力をもっと高めることが不可欠である。しかし、教員養成課程、教員採用、現職研修のいずれの段階においても、その観点は残念ながら希薄であり、極めて貧弱な現状であると言わざるを得ない。まずは、教師の力量形成のための改善・充実が急務であることを指摘しなければならない。

その上で、本稿では外部講師に焦点を当て、性に関

する効果的な出張授業の実現に向けて主に述べた。読者や関係者において、外部講師として「伝える心」にもう一段スイッチが入り、実践につながるならば幸いである。

最後に、性教育における外部講師の質と量を拡充するためには、講師育成プログラムの開発、資格の認定制度化や人材データベースのシステムづくり、財源の確保などが必要である。今後、これらの実現に向けても努力していきたい。

なお、全国性教育研究団体連絡協議会（全性連）の主催による「全国性教育研究大会」では、昨年度より「外部講師のためのスキルアップ」講座をプログラムのひとつとして設けている。今年度は、第53回大会（札幌2025）を7月26日～27日（本講座は27日午前）に開催する予定である。外部講師の経験者や候補希望者等ができるだけ多く集って、交流・協議が深まることを期待している。

※次ページに「外部講師による性に関する指導の流れの例」を掲載。

【文献】

- (1) 野津有司：欧米のセクシュアリティ教育事情と「日本型包括的性教育」を考える。現代性教育研究ジャーナル No.148（日本性教育協会編）、2023
- (2) 文部科学省編：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説体育編。2017
- (3) 文部科学省編：中学校学習指導要領（平成29年告示）解説保健体育編。2017
- (4) 文部科学省編：高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説保健体育編 体育編。2018
- (5) 公益財団法人日本学校保健会編：教職員のための指導の手引～UPDATE！エイズ・性感染症～。2018
- (6) 東京都教育委員会編：性教育の手引。019
- (7) 野津有司：喫煙防止教育に役立つ指導法「講演方式」。『喫煙防止教育のすすめ』（皆川興栄・川畑徹朗編）、ぎょうせい、pp.102-106、1993
- (8) 野津有司：学校と性教育。『学校医のすすめ』（公益社団法人日本医師会編）、文光堂、pp.110-113、2024
- (9) 野津有司：青少年の危険行動と健康教育―寝た子を上手に起こす積極的な実践をめざして―。健康教室11月増刊号、pp.100-119、1999
- (10) 野津有司：青少年危険行動研究の成果と課題。筑波大学体育系紀要 No.43、pp.17-22、2020
- (11) 公益財団法人日本学校保健会編：保健教育における個別指導の考え方、進め方。2024

【参考】外部講師による性に関する指導の流れの例（「外部講師のためのスキルアップ」講座より）

